

「警戒レベル」で早めの避難を判断

5月下旬から防災気象情報の呼称が新しく



5月29日(金)から、気象庁が発表する防災気象情報の呼称（警戒レベル）が全国一斉に変更されます。緊急度やとるべき行動が伝わりやすい名称になることで、皆さんが「いつ、どこに逃げるべきか」をより早く判断できるようにするための変更です。

危機管理課
995-1817

新しいルールを家族で確認し、日頃からの備えを見直しましょう。

5段階の警戒レベルに

これまで、河川氾濫、大雨、土砂災害、高潮に関する情報などの危険度や対応がわかりにくくなっていましたが、5段階の警戒レベルにより避難の判断をしやすくなります。

例えば、これまでの大雨警報は「レベル3大雨警報」という名称に変更になり、レベルの数字と一緒に情報が伝えられます。「レベル3」と聞いたら、避難に時間を要する人は早めの避難をしたり、避難の準備を行ったりする行動をとることになります。

【変更のポイント】

- 「命の危険度」と直結：言葉から直感的に「今の状況がいかに危険か」を感じ取れるようになります。
- 全国統一の基準：どこの地域でも同じ名称・同じ緊急度で運用されるため、転出先や旅行先でも迷いません。
- 特別警報の独立：「特別警報」は、最上位レベルとして独立し、自治体の避難指示とより密接に連動します。

「早めの避難」が命を守る

災害発生時には「早めの避難」が命を守る一番の対策です。大雨や台風などのシーズンが来る前に、以下の3点を家族で確認しておきましょう。

- ①自宅周辺の浸水や土砂災害の危険性について、ハザードマップで確認する。
- ②避難場所と避難ルートを再確認する。
- ③どの警戒レベルで避難準備を始めるかなど「避難」の判断基準を決めておく。

インターネットで情報収集を

危険の確認や情報収集には、市公式ウェブサイトや気象庁の「キキクル」（危険度分布）の通知サービスを利用してください。



市公式ウェブサイト
ハザードマップ



気象庁ホームページ
キキクル、噴火警報・噴火速報の
プッシュ型通知サービス

防災気象情報の新しい呼称

	河川氾濫 1級河川などの 大河川の氾濫	大雨 低地の浸水や 大河川以外の氾濫	土砂災害 急傾斜地のかけ崩れや 土石流	高潮 海面の上昇や 波の打上げによる浸水	(警戒レベルごとの) 住民が とるべき行動
警戒レベル 5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報	命の危険 直ちに安全確保
〈 警戒レベル4までに危険な場所から必ず避難！ 〉					
警戒レベル 4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報	危険な場所から全員避難
警戒レベル 3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	避難に時間を要する人は 早めに避難、避難の準備など
警戒レベル 2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	避難行動を確認（避難場所や避難 ルート、避難のタイミングなど）
警戒レベル 1	早期注意情報				災害への心構えを高める